



障害福祉サービス自立訓練(生活訓練)事業所

みのわ MAC だより

11 月の外プログラム

- 2 日(日) みのわマックスステップセミナー/赤羽会館
- 5 日(水) 調理実習/滝野川会館
- 12 日(水) バドミントン/西ふれあい館
- 19 日(水) 体操/西ふれあい館
- 26 日(水) 卓球/西ふれあい館
- 27 日(木) 本木荘ソフト/荒川河川敷グラウンド
- 30 日(日) 寿アルクセミナー/かながわ労働プラザ

オープンミーティング 毎月第 3 日曜日 PM6:00~7:30

どなたでも参加できます。気軽にお越しください。

主催:みのわマック OB

グループホーム	13 名	アディクションの種類	
自主運営ホーム	0 名	アルコール	8 名
入寮者	13 名	薬物	0 名
自宅から	1 名	ギャンブル	1 名
合計	14 名	その他	5 名
		合計	14 名

2025.10.17 現在



膝上でくつろぐボブ

編集後記

朝晩と急に気温が下がり寒さを感じる様になりました。日中の気温差に体がついていきません。気象庁の発表でも、年々秋が短くなっているそうで、すぐそこに冬の足音が聞こえてくるようです。

短い秋を満喫できるように、先日、善意銀行から頂いたチケットでクラシックコンサートや野球観戦に行ってきました。みんなそれぞれに違った表情を見せてくれ、普段とはまた違う一面を見ることができました。

みのわマック 小野寺

特定非営利活動法人ジャパンマック
障害福祉サービス/自立訓練(生活訓練)事業所
みのわマック
東京都北区滝野川 7-35-2
03-5974-5091
minowamac@japanmac.or.jp



9 月 30 日(火)、東京ドームで開催された巨人対中日戦を観戦しました。みのわとしての野球観戦は数年ぶりでしたが、スタンドの熱気や応援の一体感に包まれ、利用者の皆さんは終始笑顔で、とても楽しまれている様子でした。この日は、巨人の先発・田中将大投手にとって通算 200 勝がかかった試合でもあり、その歴史的な瞬間を間近で見届けることができました。実際に聞こえるキャッチャーミットの音やバットの快音、スタンドを揺らす大歓声など、迫力あふれるプレーの数々に心が躍り、興奮の一日となりました。

また、その 3 日前の 9 月 27 日(土)には、パシフィック・フィルハーモニア東京による定期演奏会を鑑賞しました。普段なかなか触れる機会の少ないクラシック音楽でしたが、聞き覚えのある曲や迫力ある演奏に引き込まれ、皆さん楽しそうに聴き入っていました。ホールいっぱいに広がる豊かな音色に包まれ、改めて音楽が持つ力や癒しを感じるひとときとなりました。

こうした貴重な文化・娯楽の機会をいただけたのは、東京善意銀行様よりご厚意で招待券をご提供いただいたおかげです。心より感謝申し上げます。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



◎家族相談室ドラセナ主宰・首都医校 板倉康弘 様よりご寄稿をいただきました◎

…過去にジャパンマックのスタッフとしてご尽力され、みのわマックとも長く関わってこられた板倉様から、マックとの歩みを通して感じ、考えておられることをお聞きました…

マックとの協働によせて*

2019年に家族相談室ドラセナを立ち上げました。この相談室は、ジャパンマックで行っていた依存症家族のための家族教室を引き継ぐ形で産声をあげました。私にとって家族相談室ドラセナはマックとの協働の継承の一つです。現在も場所を変えながら細々と運営していますが、立ち上げ当初から変わらない風景が一つあります。それは1枚の写真です。

その写真に写っているのは故・山本普一さん。バーブさんと申し上げた方がこの文章を読まれる方たちにとってはなじみがあるかもしれません。私は折に触れてバーブさんに問いかけます。私はあなたに恥じることのない仕事ができているか、と。

私とバーブさんの出会いは20歳の時。もう30年以上前の話になりました。

当時、社会福祉士を目指す学生として実習の一場面でみのわマックを訪れました。その時に施設長をしていただいたのがバーブさんでした。「ようこそ！」と言って何も知らない学生の私に両手で握手してくださった、あの手の温もりが今も忘れられません。バーブさんの壮絶な体験談を伺い、ミーティングに参加させていただいた帰り道、自分はこの領域のソーシャルワーカーとして生きていこうと決めました。

卒業後は群馬県の依存症専門病院である赤城高原ホスピタルに就職しました。距離もあったので、マックとの関係は正直なところあまり濃いものではありませんでした。それでもマックが行う調査研究事業などに参加させていただいていました。そこにはいつもバーブさんが居ました。

私がマックについて思ったり考えたりする時にはいつもバーブさんが頭をよぎります。

私の知る限り、バーブさんは支援者との関係づくりがとても上手な方でした。仕切るのでもヘリクダるのでもなく、支援者に意見を求めるところは求めて、それでいて「俺たちアル中はさ」とちゃんと当事者の立場のことも主張して教えてくれる。支援者達もまたそれを承知していて、自分たちの立ち位置から意見は述べるけれど「当事者からしたらどう思うか？」とバーブさんに意見を求める。そんな対等な関係がまぶしく見えました。かつてバーブさんが見せてくれたものは、当事者と専門職の対等な協働でした。

機会を頂いて、幸いにも私は川崎マックの施設長やジャパンマックの事務局長などを経験させていただきました。いろんなことがあったけれども、その時間は本当に貴重なものでした。

川崎マックがジャパンマックに法人合併され、ジャパンマック事務局に入った時、バーブさんが待っていてくれました。そして一言「板倉さんはもう仲間なんだから」と言ってくださった。これが本当に嬉しかった。バーブさんや先輩方がやってきたことを、自分も引き継いでいくという希望と重責感。それは今でも意識されています。



しかしバーブさんは旅立ってしまいました。ご厚意により当時みのわマック施設長だった伊藤さんと二人で、バーブさんのお葬式に参列しました。家族に囲まれたとても暖かいお葬式でした。みのわマック40周年の映像で「幸せだよなあ」と笑うバーブさんが重なります。これが回復なんだと思いました。

今でもバーブさんは家族相談室ドラセナで見守ってくれています。おそらく色々な場所でたくさんの人を見守ってくれていることでしょう。僕は日々の取り組みを、バーブさんに支えられながら取り組んでいる、そう思っています。

私たちは何らかの形でマックに繋がっています。それゆえに、ミニ神父やバーブさんたちから渡されたバトンが、私たちの手の中にあります。

私たちは彼らに恥じることのない仕事ができているでしょうか。

まだまだバーブさんに問いかける日々が続きそうです。



マック・ダルク合同オープンスピーカーズミーティング



ステージで語るみのわの仲間達

令和7年10月9日(木)、毎年恒例となっている「マック・ダルク合同オープンスピーカーズミーティング」に参加しました。

このミーティングは、全国18施設の共催による特別なイベントで、各施設から1名ずつスピーカーが登壇し、それぞれの思いや経験を語ってくれる貴重な機会です。

今回、みのわマックからは、マックプログラムの朗読とスピーカーとして2名の仲間が登壇しました。普段よりも引き締まった表情で、等身大の語りをしてくださり、とても頼もしく感じました。一方で、本人たちはそれぞれに緊張していたり、話されなかった物足りなさを感じていたようです。

また、こうした集まりでは、過去に知り合った仲間やスタッフとの思わぬ再会があることも魅力のひとつです。今回も、参加した仲間の中には「参加してよかった」と余韻を感じている方もいたのではないかと思います。

